

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市社会福祉審議会第43回(令和5年度第1回)高齢者福祉等専門分科会		
事務局 (担当課)		健康福祉局地域包括ケア推進部地域包括ケア推進課 電話 042-769-9222(直通)		
開催日時		令和5年7月6日(木)10時00分~12時00分		
出席者	委員	9人(別紙のとおり)		
	その他			
	事務局	健康福祉局長、地域包括ケア推進部長、地域包括ケア推進課長、在宅医療・介護連携支援センター所長、福祉基盤課長、高齢・障害者福祉課長、高齢・障害者支援課長、介護保険課長、中央高齢・障害者相談課長、住宅課長ほか6名		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 諮問 第9期高齢者保健福祉計画(素案)について 3 あいさつ 4 議題 (1) 専門分科会長の選出について (2) 職務代理者の指名について (3) 第8期高齢者保健福祉計画の進捗状況について (4) 高齢者等実態調査結果について (5) 第9期高齢者保健福祉計画の策定について 5 その他 6 閉会		

審 議 経 過

内容は次のとおり。

1 開会

2 諮問

第9期高齢者保健福祉計画（素案）について

諮問に際し、議題の順番を繰り上げ、専門分科会長の選出を行った。

相模原市社会福祉審議会条例第6条第4項の規定により、委員の互選によって笹野委員が専門分科会長に選任された。

高齢者福祉等専門分科会 笹野会長へ、相模原市長 本村 賢太郎の代理で若林健康福祉局長より、下記の事項を諮問した。

(1) 諮問事項

第9期相模原市高齢者保健福祉計画（素案）について

(2) 答申希望時期

令和5年10月

3 あいさつ

若林健康福祉局長よりあいさつを行った。

4 議題

(1) 専門分科会長の選出について

前述のとおり

(2) 職務代理者の指名について

相模原市社会福祉審議会条例第6条第6項の規定により、笹野会長の指名により、阿部委員が職務代理者に選任された。

(3) 第8期高齢者保健福祉計画の進捗状況について

【事務局】資料2により説明。

(大貫委員) 介護人材の不足感について、他の指標とは違い、数値が下がれば達成ということでよいのか。

【事務局】介護人材の不足感の指標については、数値が下がっていくことを目標とした指標としており、不足感が減少することは充足してきているということになる。この指標については、以前からもご意見をいただいております、次期計画の作成の際には、ご意見をいただきながら、見直しを行いたいと考えています。

(羽田委員) 高齢者人口に対する高齢者向け住宅の割合に関してだが、7月4日の新聞に、高齢者の住宅貸し渋り対策に関する記事が書かれており、大変な問題だと感じている。市が取り組む中での苦勞や問題点について、把握していれば教えてほしい。

【事務局】高齢者の住宅貸し渋りについては、喫緊の課題と認識している。相模原市居住支援協議会という、高齢者や障害者など、いわゆる住宅確保が困難な方に対して、どのように支援をしていくか協議を行う場を設けている。その中で、民間住宅に居住する高齢者もしくは高齢の入居希望の方に対して、どのように支援をしていくか、不動産団体や社会福祉協議会、NPOで高齢者の住まいの支援をしている方と共に共有しているというのが現状である。

市としては、かながわ住まいまちづくり協会に委託し、2か月に1回、住まい探しに困っている高齢者等に対する住まい探し相談会を開催したり、スムーズな住まい探しをしていただけるようリーフレットやチラシを作成したりするなど、支援をしている状況である。

(笹野会長) 住宅を探す業者の方にどのように周知を図っていくかということが重要だと考える。

(大貫委員) 民生委員をやっており、高齢の方から住宅探しに関して相談を受けた。CSWの方に相談して色々探してもらい、市営住宅にも申し込んだが空きがないということであった。ところが、市営住宅に住んでいる人からは、空いているという話を聞く。結果的にその方は施設に入ることができたが、スムーズに入ることができないのかなと思っている。

【事務局】市営住宅に関しては、居住されていた方が転居した際、その後修繕が入る

場合は、修繕待ちの部屋ということで空き部屋となっていることがある。ただの空き部屋と見えてしまうこともあるため、今後周知をどのようにしていくかというのは、課題の一つであると認識している。

また、5月に市営住宅の募集を行ったが、高齢者がメインとなる単身で入居できる部屋については、36倍の倍率となっている。単身入居の希望が近年増えてきており、市営住宅の募集に落ちてしまったという声を多く聞く。それをどれだけ民間の賃貸住宅でカバーできるかということについても、一つの課題だと認識している。

皆様からのご意見をいただき、住宅政策に対する考え方を検討して参りたい。

(相澤委員) 一般介護予防事業におけるいきいき百歳体操団体数の指標について、団体数を増やすことによって、参加者の人数が増えているのか。また、生きがいがあると感じている高齢者の割合の指標について、以前この審議会の中で、老人クラブの数が減ってきているというような話が出たことがあったが、現在老人クラブの推移はどのようになっているのか教えていただきたい。そして、現在は社会における老人クラブの存在の在り方というものを少し考え直す必要があるのではないかと思う。その点、ご意見いただきたい。

【事務局】 いきいき百歳体操については、コロナ禍で、令和2年度は休止をしていたが、令和3年度に少し活動を再開し、その時には14団体増え、新規の実参加者数は151人となっている。令和4年度については、1月末時点の情報で、26団体が新規に立ち上がり、284人が新しい団体で活動を始めた。なお累計については、令和5年1月末の段階で291団体あり、実参加者数は4,741人となっている。平成30年度の新規団体が60団体で参加者数は1,000人程度であった。そのため、新規の団体が増えるにつれて、参加者も増えると認識している。

老人クラブの関係については、令和5年4月1日現在で、市内で201クラブとなっており、令和4年度が217クラブ、令和3年度が231クラブということで、年々減少していく傾向にある。また、会員の皆さんの超高齢化というような課題認識をしている。80代の方の割合は49.9%、70代の方が34.16%、90歳以上の方は11.3%となっており、75歳以上は83.9%という状況になっている。老人クラブの存在を皆さんに知っていただくために、若葉まつりで老人クラブのブースを出して、老人クラブの周知に努めるなど加入勧奨しているところではあるが、なかなか難しい状況である。

(相澤委員) 70代のかなり若い活動できる方もおり、そもそも、老人クラブの在り方が変化してきているのではないかと思っている。高齢者全体で見ると、前期

高齢者であれば、老人クラブになかなか参加しないということもあり、違った視点で見てもいいのではないかと感じている。

(石黒委員) 老人クラブ連合会も、色々なところで行事を行っており、実際に行事を行っているところに来た方は、半分近くの方が興味を示し、そして、会員の増強に繋がっていく。市老連の中に会員増強委員会というものを設けて、取り組んでいるが、残念な話、全老連、県老連すべて同じ問題を抱えて、今苦労している状況である。

この数年間、毎年毎年、クラブ数が減り、そして会員数も約 500 人ずつ、毎年減ってきているような状況である。相澤委員から話があった通り、どうやったら変われるのか、この辺を少し考えていく必要がある。

(笹野会長) 今回、計画策定において組織の在り方について何等かの形で議論できるとよいと考えている。

(4) 高齢者等実態調査結果について

【事務局】 [相模原市高齢者等実態調査報告書](#)、[資料3](#)、[資料4](#)により説明。

(田中委員) 口腔ケアについて関心が高いことは嬉しいことである。何本歯が残っているのかということに関して、どれぐらいの食べ物が食べるかというのは少し相関関係があり、強くなるためには何本歯が残っているのかということが重要になる。

(阿部委員) 介護サービスの充実を望む回答が、一番上に来ているというところで、責任を感じるころである。それを担う従事者の獲得に非常に苦慮している状況であり、我々だけではなかなか難しく社会現象になっているとも言えるので、行政と手を携えて取り組まなければいけないと考えている。

【事務局】 介護人材の不足感についてお示ししている速報値について、数字が下がっているということで不足感が無くなっているように見えているが、現在アンケートの進捗状況が途中であり、分析できていない状況である。行政としても介護人材の深刻さは認識しているので引き続き対応していきたい。

(5) 第9期高齢者保健福祉計画の策定について

【事務局】 [資料5](#)により説明。

(梶川委員) 要望というよりは、相模原市への期待だと思っていただきたいが、今、世界的にも流行っているEBPM、いわゆる科学的根拠に基づく政策立案を計画策定に取り入れていただきたい。内閣官房の行政改革推進本部が新たなガイドブックを行政向けに発行しており、政策立案をするためにはどう考えればいいのか、詳しく紹介されている。幾ら科学的エビデンスに基づいてと言っても、一朝一夕でできるものではないため、早めのうちからEBPMというものを意識してもらい、トライ&エラーにより実行性のある施策を実行できるようになっていくことが重要であると考えている。

【事務局】 EBPMについて取り入れることができるか検討させていただく。

(相澤委員) 何ヶ所かに「世代や属性に関わらず」という言葉がでてきているが、条例等にこのような形で使用されるものなのか。

【事務局】 今ご質問いただいた世代や属性のところだが、世代は年代のことで、属性というのは、障害がある等のことを指している。条例への位置づけについては、まだ検討していないが、言葉の使い方については、計画策定の中で適切な言葉を検討したいと考えている。

(森谷委員) ハローワークでは、65歳以上の方の利用が一番多い状況であり、高齢者の多様なニーズに私どももどうやって応えていくかということを日々考えている。引き続き、本分科会で、勉強させていただければと思っている。

(笹野会長) これから本格的に高齢者保健福祉計画の策定に入っていくところだが、先ほど梶川委員から話があった、エビデンスを大事にしようということからすると、基礎調査の結果の反映というのも、とても大事なことだと考えている。

5 その他

事務局より「福祉及び保健・医療に関する計画策定へのご意見等について」の説明を行い、各委員に意見の提出について依頼を行った。

6 閉会

以上

相模原市社会福祉審議会高齢者福祉等専門分科会 委員名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	相澤 由美	相模原人権擁護委員協議会		出席
2	阿部 匡秀	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	職務代理	出席
3	石黒 雄彦	相模原市老人クラブ連合会		出席
4	大貫 君夫	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
5	梶川 義人	日本虐待防止研究・研修センター		出席
6	笹野 章央	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会	会 長	出席
7	佐藤 聡一郎	一般社団法人相模原市医師会		欠席
8	篠塚 実希子	相模原市自治会連合会		欠席
9	島森 政子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		欠席
10	田中 雄一郎	相模原市歯科医師会		出席
11	羽田 彌	特定非営利活動法人相模原ボランティア協会		出席
12	森谷 郁美	相模原公共職業安定所		出席